

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 27 日現在

機関番号：23702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593494

研究課題名(和文) 過疎地域の在宅ケア体制づくりを促進する看護職の機能に関する研究

研究課題名(英文) Essential functions of nurses that are establishing a home care system in a depopulated region

研究代表者

森 仁実 (Mori, Hitomi)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：40326111

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)： 過疎地域の在宅ケア体制構築を促す看護職の機能を明らかにするため、過疎地域市町村の保健師が在宅ケア体制構築に取組み成果を挙げた活動の分析、並びに一過疎地域において個別事例の援助を支援関係者と共に実施・評価し、当該地域の在宅ケア充実上の課題を整理する取組みを実施した。

先駆的活動から13件の看護職の機能が明らかになり、一過疎地域での事例検討から11件の課題が見出された。11件の課題解決に有効な看護職の機能を検討した結果、当事者主体の療養・介護を支える、当事者のニーズを住民に理解してもらつ、支援関係者と協働するため看護職から働きかける、当事者のニーズを町健康課題に位置づける機能が重要と考えた。

研究成果の概要(英文)： To reveal the functions of nurses that are essential in establishing a home care system in a depopulated region, we analyzed the activities of healthcare workers that had facilitated the establishment of home care systems in depopulated municipalities. In addition, together with supporters, we implemented and evaluated a home care system in one underpopulated region to reveal issues associated with the promotion of home care services. The examination of the innovative activities uncovered 13 functions of nurses, while analysis of the system implemented in the depopulated region extracted 11 issues. The important functions of nurses that effectively addressed the 11 issues were supporting recuperation and nursing care plans tailored to individual home-care recipients, educating local residents about the needs of home-care recipients, initiating cooperative work with supporters, and positioning the needs of home-care recipients as healthcare issues of the town.

研究分野：地域看護学

キーワード：過疎地域 在宅ケア体制構築 看護職の機能

## 1. 研究開始当初の背景

過疎地域ではサービス資源が限られており、地域住民が安心して在宅で生活するためには、サービス資源同士が連携・協働して多様なニーズに応えられる在宅ケア体制を構築する必要がある。また、過疎地域は住民同士のつながりが強い傾向にあることから、住民のつながりをインフォーマルな資源として在宅ケアの充実に活かすことも重要であると思われる。看護職は、対象の健康生活をアセスメントしてニーズにもとづいた支援を行い、保健・医療・福祉・介護サービスや地域住民を含めてケアに動員していくことが可能であることから、過疎地域の在宅ケア体制構築において果たすべき責任や役割は大きいと考える。

過疎地・へき地での在宅ケアにかかわる看護職の機能・役割を追究した文献は少なく、過疎地域の在宅ケア体制構築における看護職の機能に焦点を当てた研究は見当たらない。筆者らは、岐阜県内過疎地域の公的な診療所に勤務する看護職を対象にした研修事業を行い、住民との密度の濃い関係を基盤にして、診療所看護職が患者・家族のニーズを捉え、保健師と連携して援助の成果を挙げている場合があり、住民の在宅ケアニーズに対応する上で診療所看護職と市町村保健師が協働する意義に気づいた。たとえ過疎地域であっても、診療所看護師と市町村保健師は設置されていることが多く、両者は過疎地域の在宅ケア体制を構築する貴重な人材であると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究では在宅ケア体制の構築に先駆的に取り組んでいる過疎地域において看護職が発揮している機能を調べ、かつ、診療所看護職・市町村保健師など地域の看護職と共に在宅ケア体制の構築をめざした活動を行うことを通して、過疎地域における在宅ケア体制構築に関わる看護職の機能を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

以下の3つの方法で構成される。

### 1) 先駆的活動事例の分析による看護職の機能の検討

過疎地域において、市町村保健師が中心になって在宅ケア体制充実に向けて取り組み、その成果が確認できた2町の活動事例を調査対象とする。取り組みを行った市町村保健師と国保病院看護師を面接対象者とし、在宅ケア体制構築にかかわる活動を聞き取る。作成した面接記録や面接対象者が著した文献から在宅ケア体制構築にかかわる活動実績を抽出・分析して、看護職が担っていた機能を検討する。

### 2) 一過疎地域の事例検討を通じた在宅ケア充実に向けた課題の整理

一過疎地域の国保診療所看護師の協力を得て、在宅ケアを支援している患者の内、保健・医療・福祉・介護等の関係者や地域住民との連携・協力を強化したいと思う事例を紹介してもらい、モデル的活動をめざして診療所看護師等の関係者と共に事例検討会を行いながら援助を実施する。事例への援助過程を記述・分析することにより、援助過程で看護職の担った機能と課題を整理する。さらに、対象事例と類似の状況にある住民を診療所看護師等の関係者に想起してもらい、当該地域の在宅ケア充実に図る上での課題を共に検討する。

### 3) 過疎地域の在宅ケア体制構築を促進する看護職の機能の明確化

前記1)の活動事例から得られた看護職の機能を統合し、看護職が担った機能をまとめる。次に、まとめた看護職の機能は、前記2)で検討した対象事例の援助過程における課題と当該地域の在宅ケア充実に図る上での課題を解決するために有用かという視点から検討し、それをもとに過疎地域の在宅ケア体制構築を促進する看護職の機能を考察する。

## 4. 研究成果

### 1) 先駆的活動事例から抽出された看護職の機能

約30年前に在宅での看取りを支えるために市町村保健師が強い意志をもって取り組んだ活動事例と、難病患者の療養生活支援を中核にして市町村保健師を始めとする地域の看護職が約20年かけて在宅ケア体制整備を推進してきた活動事例を分析した。看護職の機能は計48件抽出され13に分類することができた。以下、分類した機能は文中に〔 〕で示す。

働きかける対象という視点から13項目の分類をみると、〔当事者による主体的な療養や介護を支える〕〔当事者間の支え合いを促す〕は当事者に向かい、〔在宅ケアニーズを査定し、町の健康課題として位置づける〕〔当事者のニーズに対応する必要性や意義を住民に理解してもらう〕〔住民の願望を捉え、住民の主体性を引き出す〕は当事者を含む地域生活集団に向かっていった。〔関係者が協働して課題解決に取り組めるよう自ら動き、働きかける〕〔在宅ケアを支える援助関係者の力量を高める〕〔看護管理者が組織を越えて課題解決に取り組む〕は地域の専門職等に向かい、〔行政組織に承認された活動とする〕〔町の健康課題に対する議会理事者の認識を高める〕は保健師が所属する行政組織や議会に向かっていった。

一方、〔資源創設に必要な人材確保の具体策を見出す〕〔創設した資源の機能発揮を支える〕〔好機を逃さないで活動を推進する〕の3項目は特定の対象に向かって発揮される機能ではなく、在宅ケア体制構築のために必

要な資源をつくり出し、各資源が有機的に連携する仕組みを創り出す過程を前進させるために重要であった。

### 2) 一過疎地域の在宅ケア充実を図るために有用と考えられた看護職の機能

2 事例の高齢者世帯を対象に看護職と共に援助を実施・評価し、この取り組みをもとに当該地域の在宅ケア充実を図る上での課題を看護職と話し合い、11 件の課題を見出した。それらの課題を上記 1. で得た 13 分類の機能と照合して課題解決に有用な機能を検討した。

家族が本人の健康問題への対応に悩み孤軍奮闘していたが、利用していた診療所へ相談が持ちかけられることはなく状況が悪化した現状から、〔当事者による主体的な療養や介護を支える〕働きかけがあれば、事例が潜在化して問題が拡大する前に援助が開始できた可能性があると考えた。健康問題に対する周囲の理解不足や偏見により必要な医療に繋がらない、周囲のサポートが得られにくいという現状に対し、〔当事者のニーズに対応する必要性や意義を住民に理解してもらう〕ことが有用と考えられた。他の医療機関から診療所へ紹介状が届いていたが具体的な支援に至らなかった現状に対し、〔関係者が協働して課題解決に取り組めるよう自ら動き、働きかける〕ことが重要と考えられた。認知症の妻と二人暮らしの夫に対し、妻との生活で夫が本当に困っていることに援助者が気づかないまま支援していたことから、認知症に関する知識や状況に応じた判断・介入について学ぶ必要があると思われ、〔在宅ケア体制を支える援助関係者の力量を高める〕ことが有用と考えた。

### 3) 過疎地域の在宅ケア体制構築を促進する看護職の機能

2 町の先駆的活動事例から抽出された機能と前記 2) に示した一過疎地域の課題解決に有用と考えた機能を照合したところ、〔当事者による主体的な療養や介護を支える〕〔関係者が協働して課題解決に取り組めるよう自ら動き、働きかける〕〔当事者のニーズに対応する必要性や意義を住民に理解してもらう〕〔在宅ケア体制を支える援助関係者の力量を高める〕〔在宅ケアニーズを査定し、町の健康課題として位置づける〕の 5 つの機能は共通して確認された。中でも、〔当事者による主体的な療養や介護を支える〕〔関係者が協働して課題解決に取り組めるよう自ら動き、働きかける〕〔当事者のニーズに対応する必要性や意義を住民に理解してもらう〕の 3 つの機能は 2 町と一過疎地域のいずれにも認められた。

先駆的活動事例 2 町および一過疎地域のすべてに確認された 3 つの機能は、従来の方法では解決が難しい事例に取り組む過程で強化され、発揮されることで当事者の問題解決

に貢献することはもちろん、関係者間のチームワークを高めたり、在宅ケア体制構築に対する住民の期待感を醸成することになり、結果的に在宅ケア体制構築の基盤づくりになると考えられた。過疎地域では当事者と周囲の住民の関わりが強く、それが当事者の健康問題への対処行動に影響を与えやすいため、特に〔当事者のニーズに対応する必要性や意義を住民に理解してもらう〕ことは重要であると思われた。

〔在宅ケアニーズを査定し、町の健康課題として位置づける〕は、先駆的活動事例 2 町で確認された。看護職は個別事例への支援を行いつつ、一方で地域という視野から在宅ケアニーズを捉えることが可能である。住民の実態から在宅ケア体制構築の必要性を明確し、その課題を地域の課題に位置づけ、中長期的な取組みを計画的に展開することが重要と考えられた。〔在宅ケア体制を支える援助関係者の力量を高める〕は、先駆的活動事例 1 町と一過疎地域で確認された。在宅ケアを支える援助関係者の力量が高まれば、より複雑な問題に対処できる可能性が高まる。過疎地域では在宅ケアの関係者の人数や職種に限りがある場合が多いことから、限られた関係者個々の能力を高めることは重要であると思われた。

## 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 2 件)

・森仁実, 古川直美, 北山三津子; 在宅ケア体制を構築した過疎地域看護職の活動事例の分析, 第 73 回日本公衆衛生学会総会抄録集, Vol. 61 No. 10, p. 499, 2014.

・田中昭子, 原田めぐみ, 古川直美, 北山三津子; 一過疎地域において看取りに関する在宅ケア体制構築に取り組んだ看護職の果たした役割・機能, 第 34 回日本看護科学学会学術集会講演集, p. 679, 2014.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

森 仁実 (Mori Hitomi)

岐阜県立看護大学・地域基礎看護学領域・教授

研究者番号: 40326111

### (2) 研究分担者

・北山 三津子 (Kitayama Mitsuko)

岐阜県立看護大学・地域基礎看護学領域・教授

研究者番号: 70161502

・古川 直美 (Furukawa Naomi)

岐阜県立看護大学・地域基礎看護学領域・准教授

研究者番号: 40290035

・田中 昭子 (Tanaka Akiko)

岐阜県立看護大学・地域基礎看護学領域・准教授

研究者番号：80274314

- ・原田 めぐみ (Harada Megumi)  
岐阜県立看護大学・地域基礎看護学領域・  
助教

研究者番号：80448696

- ・種村 真衣 (Tanemuta Mai)  
岐阜県立看護大学・地域基礎看護学領域・  
助教

研究者番号：80625260

- ・高橋 智子 (Takahashi Tomoko)  
岐阜県立看護大学・地域基礎看護学領域・  
助教

研究者番号：50720174

### (3)連携研究者

春山 早苗 (Haruyama Sanae)

自治医科大学・看護学部・教授

研究者番号：00269325